

森トラストホテルズ&リゾーツ株式会社

サステナビリティ推進本部

2024.6.25

# Sustainability 活動実績 2023



# 目次

トップコミットメント・・・・・・・・・・3p  
サステナビリティ推進方針・・・・・・・・4p  
データ集・・・・・・・・・・・・・・19p

Friendly for the earth 地球にやさしく  
・・・・・・・・5-9p



Wellness for Everyone  
すべての人にウェルネスを・・10-11p



Together with the Community  
地域とともに・・12-15p



Growth Through Rewarding Work  
仕事を通じ成長を・・16-18p



## 環境だけでなく、経済・社会との共生を目指します

### 経済・環境・社会の共生を目指して

森トラストグループは、「わくわくするような未来の創造」を目指して、不動産事業・ホテル&リゾート事業・投資事業の3つの柱にとどまらず、様々な事業領域へと舞台を拡大させています。

その多くは人々の生活を創り出し、新たな時代のスタンダードを生み出していくものです。当社グループの長い歴史の中で築き上げてきた経験と、新時代創造に対する想いを掛け合わせ、環境への配慮と経済や社会の発展とが両立する社会の実現を目指してまいります。

### まちづくりからみらいづくりへ

かつて当社グループの創始者、森泰吉郎は「17カ条」の経営理念を語っており、その中で「ビルづくり(単体開発)から街づくり(面的再開発)へ」の変革を掲げています。人々の生活を形作るまちづくりへの変革を経て、当社グループは時代に対応した新しい価値を生み出してきました。

このたび私たちは「まちづくりからみらいづくりへ」をスローガンとして掲げ、経済・環境・社会の共生を目指すフェーズへの変革を推し進めることで、さらに先の世界を創造してまいります。

### サステナビリティの実現

サステナビリティの推進は、将来社会に起こりうるリスクを軽減することに加え、事業の拡大、ひいては経済の発展にもつながります。これを念頭に、安心・安全なまちづくり、環境への配慮、ウェルネスやダイバーシティなど、7つのテーマに沿って持続可能な社会を実現させてまいります。そのうちの一部は当社グループ自身をモデルケースとして体現し、社会への実装を推進いたします。



森トラスト株式会社 代表取締役社長  
伊達 美和子

# サステナビリティ推進方針

森トラストグループでは、サステナビリティ推進ビジョンを「まちづくりからみらいづくりへ」として掲げ、環境だけでなく経済・社会との共生を目指しています。

森トラストの中核事業（不動産事業・ホテル&リゾート事業・投資事業）の一つであるホテル事業を担う森トラスト・ホテルズ&リゾート株式会社では、この一環として、会社が社会とともに持続的に成長するために、お客様・地域の方々・従業員に信頼される企業を目指し、4つの重点活動項目を設定し、取り組んでいます。



## ①Friendly for the earth 地球にやさしく

資源効率と省エネの促進を通じて地球環境に負荷の少ない企業活動を目指します

- ❑ 脱炭素社会の実現に向けた取り組み
- ❑ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進
- ❑ 様々な地域への支援活動
- ❑ フードロスの低減

## ②Wellness for Everyone すべての人にウェルネスを

展開している事業を通じて健康で前向きな生活を送れるような体験を提供いたします

- ❑ 健康増進の取り組み
- ❑ 心身を整えるアクティビティ・リラクゼーションの促進
- ❑ 食を通じたウェルネス

## ③Together with the Community 地域とともに

事業を展開しているそれぞれの地域資源の積極的な活用。雇用、パートナーシップを通じ国内外へ地域の魅力を発信し、双方の発展を目指します地域の魅力を発信し、共に栄える地域づくり

- ❑ 地域の環境・まちづくりを支援する貢献活動
- ❑ 地産地消を意識した料理の提供
- ❑ 文化の保全

## ④Growth Through Rewarding Work 仕事を通じ成長を

働き甲斐のある、働きやすい職場環境を通じ会社と社員の成長を目指します。

- ❑ 活力ある組織づくりと人材育成
- ❑ 健康経営実現に向けた取り組み
- ❑ より柔軟で多様な働き方の推進
- ❑ 多様な人材の活躍

---

# Friendly for the earth

## 地球にやさしく

資源効率と省エネの促進を通じて地球環境に負荷の少ない企業活動を目指します

—活動事例—





3事業所で  
再生可能エネルギー  
導入

資源効率と省エネの促進を通じて地球環境に負荷の少ない企業活動を目指します

## 脱炭素社会の実現

個包装ソープやアメニティ包装の廃止、ウォーターサーバー等の導入によるペットボトル使用量の削減や使い捨てプラスチックの、環境配慮素材への転換（紙ストロー、紙カップ等）。過度な清掃の自粛やアメニティ交換の抑制、ゴルフ場におけるガソリン車カートから電気カートへの切り替え、施設内照明のLED化や、従業員エレベーターの使用制限など。

### ▶再生可能エネルギーの利用

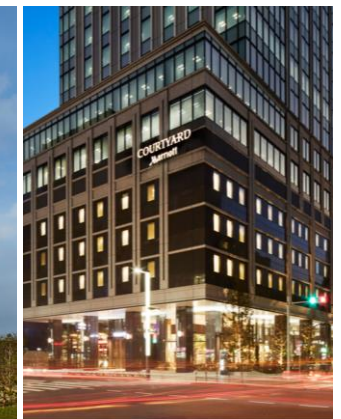
2023年より、「東京マリオットホテル」、「ウェスティンホテル仙台」、「コートヤード・バイ・マリオット東京ステーション」の3ホテルにおいて再生可能エネルギーの導入を開始いたしました。

### ▶CO2排出量の削減

当社で運営している直営事業所の立地する自治体の定めた条例に従い、照明のLED化、冷暖房の設定温度最適化、設備機器の更新等を通じCO2排出量の削減に努めています。  
※琵琶湖マリオットホテル 基準年度より3年間で3%削減のところ10%削減を達成（2022年度実績）

### ▶エネルギー消費量の低減

空調運用の最適化を通じ毎年1%のエネルギー消費量の低減を目指します。  
※2022年度エネルギー消費原単位 0.0604kl/m<sup>2</sup>※複合ビルとして一体管理されている事業所を除く



# Renewable Energy

## 資源効率と省エネの促進を通じて地球環境に負荷の少ない企業活動を目指します

### 脱炭素社会の実現

個包装ソープやアメニティ包装の廃止、ウォーターサーバー等の導入によるペットボトル使用量の削減や使い捨てプラスチックの、環境配慮素材への転換（紙ストロー、紙カップ等）。過度な清掃の自粛やアメニティ交換の抑制、ゴルフ場におけるガソリン車カートから電気カートへの切り替え、施設内照明のLED化や、従業員エレベーターの使用制限など。

#### ▶EARTH HOURへの取り組み

世界最大級の環境イベント「EARTH HOUR（アースアワー）」の趣旨に賛同し、廃棄物を活用したゲスト参加型企画を実施いたしました。

日本各地 10ヶ所のホテルで廃棄物を活用したワークショップを開催 2023年12月1日(金)~2024年2月29日(木)、当社が運営する日本各地 10ヶ所のホテルで、宴会場やレストランで廃棄される空き缶を活用してランタンを作るワークショップを開催。全ホテル合計で 348 個のランタンが集まりました。

また南紀白浜マリriottホテルでは竹林を整備する上で伐採された竹を活用したワークショップも実施。全 10 回で集まった 33 個の竹ランタンは、南紀白浜マリriottホテルでアースアワーに点灯いたしました。

手作りの空き缶ランタンがお披露目された「EcoBright Night」2024年3月23日(土)のアースアワー当日、東京マリriottホテルのレストラン前に日本各地から集まった空き缶ランタンが設置され、20:30~21:30の館内消灯にあわせソーラー充電式イルミネーションライトで一斉に明かりを灯しました。宿泊先で制作したランタンを探すご家族や写真撮影をする方々が集まり賑わいを見せました。当日は、普段は廃棄されるフルーツの皮を活用したカクテルなど3種の1日限定オリジナルドリンクを販売。

※EARTH HOUR（アースアワー）とは

EARTH HOURは、2007年にWWFオーストラリアとパートナー企業が、気候変動への関心を高めるためにシドニーで行った消灯イベントをきっかけに始まりました。今では世界最大級のグラスルーツイベントと成長しています。毎年3月の最終土曜日に開催されるEARTH HOURは、190以上の国と地域が参加し、人々と地球のより良い未来のために行動を起こしています





特定プラスチック使用量を  
**5.21t削減!**

資源効率と省エネの促進を通じて地球環境に負荷の少ない企業活動を目指します

## 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進

循環型社会の実現を目指し、さまざまな場面で3R（リデュース：ごみの削減、リユース：繰り返し使用する、リサイクル：再度資源として生かす）の活動を行っています。コピー用紙の使用量削減等ペーパーレス活動ごみの分別の徹底コピー用紙、ペットボトル、新聞、段ボール等の使用量削減・再利用客室の余剰・残存アメニティの従業員への再利用廃油の再利用・再資源化（バイオマス燃料等）カプセル式コーヒーの廃棄物再利用など。

### ▶プラスチック使用量の低減

2024年度を目途に運営18ホテルで年間約16トン使われているホテルアメニティを見直しすることで、特定プラスチック使用量を約15トン削減し1トンとするべく取り組んでいます。

2023年度は下記3点の実施によりゲストの皆様とともに豊かな観光資源の保全に取り組ましました。より一層サステナブルで地球にやさしいご旅行への一助となりたくと考えています。

- ① 木製や竹製、減プラスチック製品など環境に配慮したアメニティを順次導入。
- ② ご宿泊される皆様にご持参いただく取り組みを実施。（2023年6月より「Holiday ホリデー with ウィズ your ユア amenity アメニティ」キャンペーンを実施。）
- ③ 2023年9月以降、一部ホテルアメニティの無料設置を廃止し、順次販売へ変更

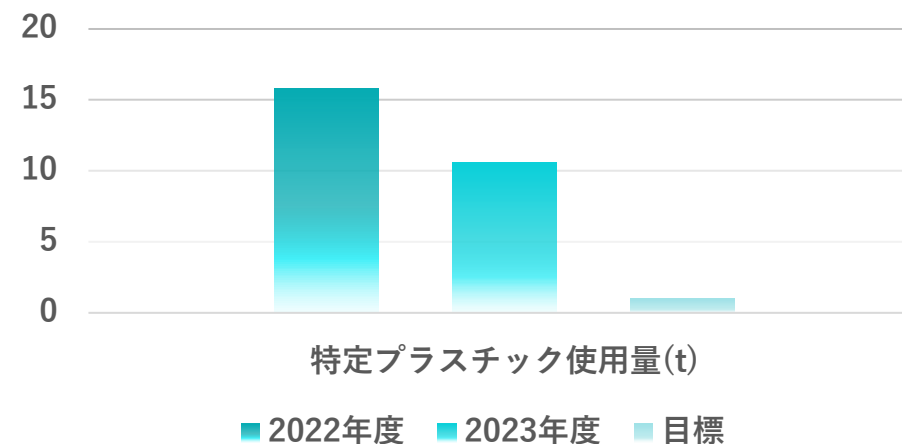
上記取り組みにより、2023年度は全事業所で特定プラスチック使用量が前年の15.82t→10.61tへと33%削減いたしました。

### ▶調理廃油の削減

軽井沢マリオットホテルでは年間2千リットル弱でしていた廃油を肥料に変える取り組みがスタートいたしました。

※2022年度実績：10.61トン

当社が東京都内で運営するレストランLAVAROCKでは廃油をバイオディーゼル燃料へとリサイクルする取り組みがスタートいたしました。







1事業所当たりの  
生ごみ廃棄量を  
**12.5%削減!**

資源効率と省エネの促進を通じて地球環境に負荷の少ない企業活動を目指します

## フードロスの低減

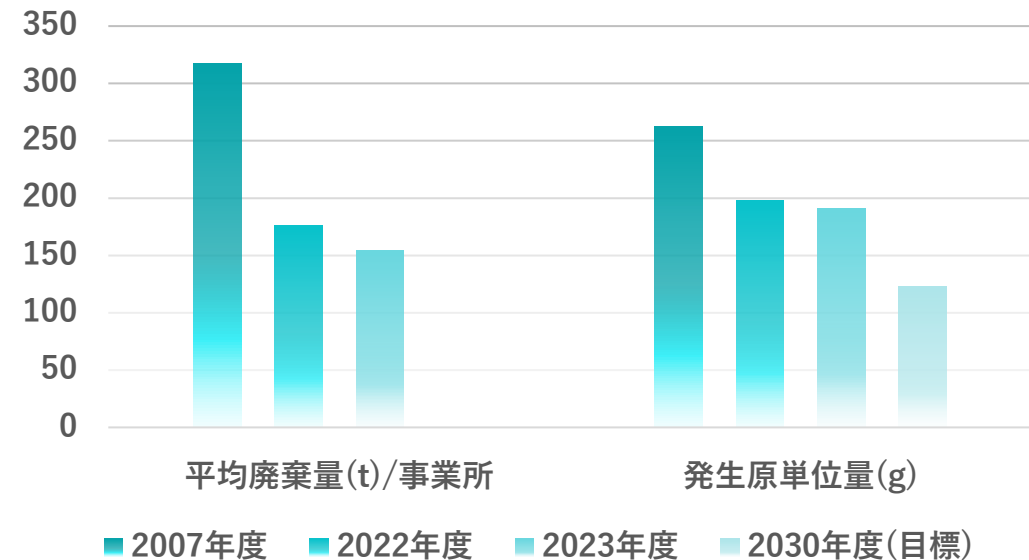
フードロス問題に取り組むために、各ホテルでは余った食材をカレーやスープ等に積極的に活用することでロスの削減に努めています。また、コンポストの導入などを通じ生ごみ廃棄量の削減にも取り組んでいます。

### ▶生ごみ廃棄量の低減

2023年度の事業所全体の生ごみ廃棄量は309トンでしたが、1事業所当たりの廃棄量は15.4トンで12.5%の削減となりました。

### ▶コンポストの導入

シェラトンサンマリーナ沖縄ではバイオ生ごみ処理機の運用を開始致しました。この導入は沖縄本島のホテルでは初となり、処理後の肥料となる分解水については、近隣農家への提供や、ホテル庭園の野菜やハーブの育成に用いるなど、さらなる活用方法を検討して参ります。



---

# Wellness for Everyone

すべての人にウェルネスを

展開している事業を通じて健康で前向きな生活を送れる  
ような体験を提供いたします

—活動事例—



展開している事業を通じて健康で前向きな生活を送れるような体験を提供いたします

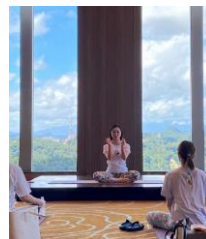
## ▶健康増進の取り組み/ウォーキング・サイクリング

全事業所で厚生労働省の推奨する1日8千歩を目安に毎月ウォーキングチャレンジデーを設け、日々の習慣づけを楽しんでいます。  
ゲストに向けてはウォーキングを通じ各地域の見どころを回る「ウェルネスツアー」を毎年実施しており2023年は15ツアー、148名の参加がありました。  
各ホテルではウェルネスツーリズムとサステナブルツーリズムの一環でe-bike含めたレンタサイクルのサービスも展開しています。



## ▶心身を整えるアクティビティ・リラクゼーションの促進

様々な観点から身体を整えることができ、世界中で人気を集めているピラティス。ウェスティン仙台では地上110mに位置し、西は蔵王連峰、北は仙台市街地から七ツ森を見渡す開放的な空間「雅」での絶景ピラティスで、当ホテルならではのウェルビーイングをご体験いただけるイベントです。



## ▶当社オリジナル資格認定制度「温泉アドバイザー」養成

世界中で人々の健康への意識が高まりを見せるなか、健康維持や促進、病気予防、リハビリテーションを期待し、温泉やスパ、ヨガ体験を目的に旅行をするウェルネス・ツーリズムが注目を集めています。世界有数の規模を誇る温泉大国である日本の温泉の魅力を伝えるために、お客様に合わせて最適なウェルネスステイを提案できる人財を育成するプログラム「温泉アドバイザー制度」が2021年からスタート。2023年は3期生19名、延べ39名の温泉アドバイザーが誕生いたしました。



## ▶食を通じたウェルネス

2023年夏、リゾートマリオットホテル6事業所で「サステナブル」をテーマにしたディナーbuffetを展開。お子様を対象とした「サステナブル・ミッション」企画は延べ3,156名のお子様にご参加  
ヴィーガンの方やベジタリアンの方への対応も随時進めており、東京マリオットホテルで提供しているヴィーガンアフタヌーンティーは2023年度は1千名を超える方にご利用いただきました。



# Together with the Community

## 地域とともに

事業を展開しているそれぞれの地域資源の積極的な活用。  
雇用、パートナーシップを通じ国内外へ地域の魅力を発信し、双方の発展を目指します

—活動事例—



# Together with the Community 地域とともに - 1

事業を展開しているそれぞれの地域資源の積極的な活用。雇用、パートナーシップを通じ国内外へ地域の魅力を発信し、双方の発展を目指します

## 地域の魅力を発信し、共に栄える地域づくり

### ▶地域循環型農業の実現

軽井沢マリオットホテル、コートヤード白馬では近隣の農家と連携し、冬に集めた落ち葉で作ったたい肥で野菜を育て、収穫し、レストランでの朝食やディナーに活用しています。



### ▶地域行事への積極的参加

シェラトンサンマリーナ沖縄ではコロナ禍を挟み4年ぶりに開催された地域のお祭りである「前兼久ハーリー大会」に参加。これからも地域とよりよい関係を築きます。



### ▶地域製品の発信

東京・神谷町にて地方産業の発信・育成を支援する「CoCo JAPAN」を運営しています。2023年度は常設展7回、企画展16回、イベント6回開催し、各地域の製品を紹介いたしました。

COCO JAPAN



事業を展開しているそれぞれの地域資源の積極的な活用。雇用、パートナーシップを通じ国内外へ地域の魅力を発信し、双方の発展を目指します

## 地域の環境・まちづくりを支援する貢献活動

地域の一員として共に発展したいという想いを胸に、様々な貢献活動を行っています。

### ▶Charities for Noto (チャリティーズフォー能登)

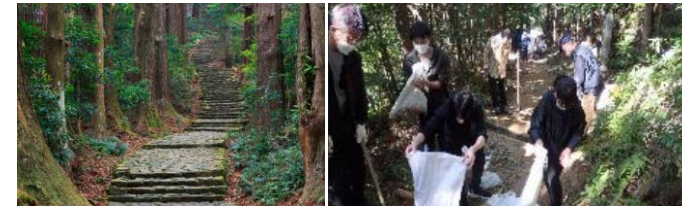
令和6年能登半島地震で被災した石川県への寄付ができる宿泊プラン「Charities for Noto (チャリティーズフォー能登)」を販売。

2か月間の販売で20施設、694名に賛同いただきました。



### ▶道普請

2004年7月に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録された「熊野古道」は、石畳や階段の部分もありますが、多くは土の道です。また紀伊山地は、年間を通じて雨量が多く、台風の被害にも度々見舞われる地域であるため道の傷みも確認されております。南紀白浜マリOTTホテルでは、この世界遺産を自らの手で次世代へと引き継いでゆく保全活動、「道普請」を行う、サステナブルな体験を宿泊プランとしてご提供。宿泊ゲストの皆様ご参加いただきました。



### ▶ROAD TO GIVE

マリOTTインターナショナルのテイクケア活動、そして世界に貢献する活動の一環として実施しているチャリティーイベントRoad to Giveを2023年度は2回実施いたしました。リッツカールトン沖縄をはじめとした県内のマリOTTグループホテルと共同で従業員とご家族がランナーとして参加。ランニングやラッキードローを行い、従業員同士の交流を深めることができました。参加者による募金は、ウクライナへの寄付金として被災地の復興や支援活動に活用いたしました。



事業を展開しているそれぞれの地域資源の積極的な活用。雇用、パートナーシップを通じ国内外へ地域の魅力を発信し、双方の発展を目指します

## エリア内でのクリーン活動

それぞれの事業所の近隣での清掃活動を地域事業者とも連携しながら行っています。

### ▶シェラトンサンマリーナ沖縄

沖縄県恩納村商工課主催の「空き缶散乱防止キャンペーン及びビーチクリーンアップ大作戦」。サンマリーナから前兼久漁港までの国道約2.2kmのクリーン活動に参加致しました。国道沿いや富着ビーチ、漁港周辺の清掃を行い4袋分のゴミを収集。これからもきれいな海を守り続けていけるよう、より多くのスタッフと参加して参ります。

### ▶コートヤード新大阪

近隣の3ホテルと共同で新大阪駅周辺の清掃活動を定期的に行っています。

### ▶南紀白浜マリオットホテル

本州では最も早い海開きで有名な白良浜のビーチクリーン活動を、ハワイアン航空の「Team Kokua」や京都外大西高校の生徒さんたちとともに実施いたしました。

## 文化の保全

紫翠（奈良）インディゴ長崎（長崎）、万平ホテル（軽井沢）

2023年度は有形文化財である旧奈良県知事公舎を活用し、伝統と現代の結び目をコンセプトとした紫翠ラグジュアリーコレクションホテル奈良が開業しました。2024年も日本のクラシックホテルの草分けである万平ホテルや国選定重要伝統的建物群保護地区の伝統的建造物である旧マリア園を改修しホテルとして再生するインディゴ長崎グラバーストリートプロジェクトなどが推進中です。

建物のみならず、そこで生きながらえていた文化も継承し訪れるゲストや後世に伝えていきます。



# Growth Through Rewarding Work

## 仕事を通じ成長を

働き甲斐のある、働きやすい職場環境を通じ会社と社員の成長を目指します。

－活動事例－





# Growth Through Rewarding Work 仕事を通じ成長を - 1

働き甲斐のある、働きやすい職場環境を通じ会社と社員の成長を目指します。

## 活力ある組織づくりと人材育成

様々なノウハウや知識を継承し、活力ある組織を形作る様々な教育を行っています。また多様性や機会均等などの教育により、誰もが活躍できる組織づくりを目指してまいります。

### ▶料理コンクールの開催

次世代を担う若手スタッフの育成と働き甲斐のある職場環境づくりを目的として、各ホテルの調理スタッフとサービススタッフを対象に「料理コンクール」を開催いたしました。



### 多彩な人材育成プログラム

「自ら企画し動ける人材」の育成をテーマに100以上の教育プログラムを提供しています。ホテルの現場でのスペシャリストを目指す方や総合的にホテルを統括するマネージャー職の養成、DX人材の育成など時代の要請にも応えられるプログラムを順次開発、実装しています。

### ▶立教大学観光学部秋期授業「ホテル運営論」に参画

当社は、不動産開発、オペレーション、人材開発など、世界水準のホテル開発・運営において幅広い分野で活躍するプロフェッショナルが在籍しております。この授業全体を通して各分野で活躍する当社グループ社員が講師として登壇することで、ホテルの開発、開業、運営に至るまでを各社員の視点から講義し、新しいホテルの価値をつくり地域活性化に貢献するという、観光産業で働くことの魅力を学生に発信いたしました。

### ■立教大学観光学部「ホテル運営論」授業概要

観光教育の企画・運営を担う池尾健氏が、ホテルや観光、地域といった文脈で「多様性」を体現する企業からゲスト講師を招き、ホテル運営の基本だけでなく、「ホテルに関わり働くこと」の多面性を理解することを目的として実施している授業です。今回当社は「不動産開発」「新規ホテル開業」「人的資本」「オペレーション」をテーマとして、合計6回のオンライン講義を実施いたします。世界水準のホテルを開発・運営する当社グループ社員による講義とパネルディスカッション、学生たちによるグループワークを行い、未来の観光産業の担い手となりうる学部生たちに、観光産業で働くことの魅力を発信いたしました。



男性育休取得率  
**13%up!**

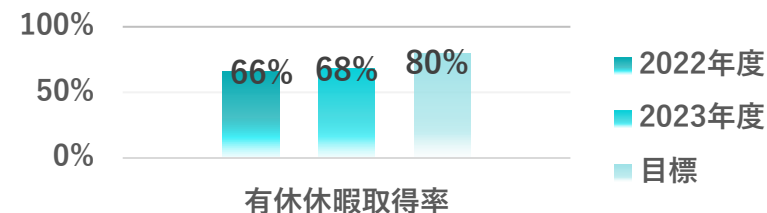
働き甲斐のある、働きやすい職場環境を通じ会社と社員の成長を目指します。

## 健康経営実現に向けた取り組み

従業員が持続的に事業を継続できる職場環境の実現を推進しています。

### ▶有休休暇取得率の向上

2023年度の実績は68%と前年度より2ポイント改善いたしました。リフレッシュ休暇制度や子供行事休暇、アニバーサリー休暇など地域や現場の実情に合わせた制度の導入により、誰もが有給休暇を取得しやすい仕組みづくりを進めます。

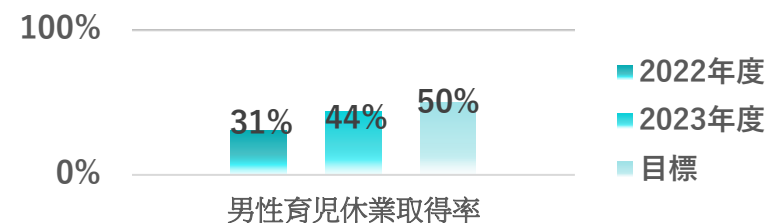


## より柔軟で多様な働き方の推進

誰もが働きがいのある職場を目指し、従業員と家族の生活を支援しています。

### ▶育児休暇取得率、男性育児休暇取得率

育児休業取得率は100%。男性育児休業取得率は44%と前年度より13%改善。引き続き取得しやすい職場環境を目指します。

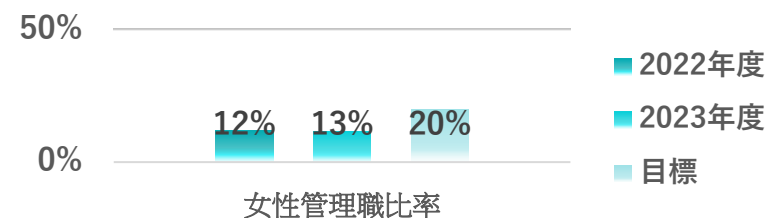


## 多様な人材の活躍

各事業において、人材採用に多様性を取り入れ、様々な場面で活躍できる環境構築を推進しています。

### ▶女性管理職比率、外国人採用数

女性管理職比率は前年比1point上昇の13%。新卒に占める外国人採用数は28%とインバウンドの増加に対応すべく外国人の採用数を進めています。



# データ集

大項目	中項目	2022年度実績	2023年度実績	数値目標	達成年度
環境	エネルギー消費 原単位	0.0604kl/m <sup>2</sup> ※3	集計中	▲1%/年	毎年
	CO2排出量 削減率	10%※1	集計中	各自治体より定められた削減義務率(基準年度より3年間で3%削減)を上回る削減率	2024年3月※2
	生ごみ発生原単位	198g	193g	123g	2031年4月
	特定プラスチック使用量	15.82 t	10.61 t	1 t	2025年3月
ダイバーシティ	女性管理職比率	12%	13%	20%	2025年3月
	外国人雇用人数・比率	新卒29%	新卒28%	—	—
働きやすさ・健康	育児休業取得率	100%	100%	100%	2025年3月
	男性育児休業取得率	31%	44%	50%	2025年3月
	有給休暇取得率	66%	68%	80%	2025年3月
教育	教育プログラム数	100	100	—	—
	受講人数	681名	865名	—	—
	受講率	78.60%	90.50%	—	—